

## 2016年度 第3回 鋼構造運営委員会 議事録

1. 日時 平成28年11月25日(月) 13時00分～15時30分
2. 場所 建築会館
3. 出席者 多田元英, 五十嵐規矩夫, 井戸田秀樹, 兼光知己, 木村祥裕, 竹内 徹,  
(敬称略) 田川泰久, 田中 剛, 津田恵吾, 中込忠男, 成原弘之, 平島岳夫,  
増田浩志, 緑川光正, 宇佐美徹(記録)  
欠席:一戸康生, 岡崎太一郎, 岡本哲美, 越智健之, 笠井和彦, 向野聡彦,  
澤本佳和, 下川弘海, 寺田岳彦, 原田幸博, 西山 功, 見波 進

### 4. 配付資料

- 03-01 2016年度第3回鋼構造運営委員会議事予定(多田主査)  
03-02 2016年度第2回鋼構造運営委員会議事録(案)(宇佐美)  
03-03 構造本委員会の動き(多田主査)  
03-04 鋼構造座屈小委員会(井戸田幹事)  
03-05-1 鋼構造柱脚設計施工ガイドブック査読回答(増田委員)  
03-05-2 鋼構造柱脚設計施工ガイドブック講習会会告案(増田委員)  
03-06 鋼構造耐火設計小委員会(平島委員)  
03-07 鋼構造環境小委員会(兼光委員)  
03-08 鋼構造素材小委員会(中込委員:見波委員代理)  
03-09 鋼構造塑性設計小委員会(五十嵐委員)  
03-10 鋼構造関連規準・指針の英文化小委員会(田川委員:岡崎委員代理)  
03-11 鋼構造設計規準改定小委員会(田川委員)  
03-12 各種アンカーボルト設計 WG(田川委員)  
03-13 2017年度大会 PD 検討資料(多田主査)  
03-14 質疑回答の一覧(井戸田幹事)  
03-15 鋼構造運営委員会予算原案(多田主査)

### 5. 議事内容

- (1) 資料03-02に基づき前回議事録の確認を行い, 承認された。
- (2) 資料03-03に基づき井戸田幹事より構造本委員会の動きについて説明がなされた。
- ・ 大会プログラム編成会議の日程は4/18(火)から4/20(木)に変更。
  - ・ 鋼構造での2017年度大会の若手優秀発表賞の実施は今後検討する。
  - ・ 各小委員会主査は小委員会活動報告を作成の上, 2/25までに提出のこと。
  - ・ 2015-2016年度調査研究委員会活動報告会用資料は多田主査が作成して提出する。
  - ・ 2017年度予算配分として, 構造委員会の予算は23,425,000円(2016年度23,166,000円), 鋼構造運営委員会の予算は3,390,000円(2016年度3,880,000円)。
  - ・ 構造委員会から出版する書物全てに, 免責事項について記載する。
  - ・ 鋼構造運営委員会からの災害委員会委員(氏名, 勤務先, 専門)を2/24までに事務局(伏見さん)に連絡のこと。
- (3) 資料03-04~03-12に基づき各担当委員より小委員会, WGの報告がなされた。

#### 座屈小委員会(資料 03-04, 井戸田幹事)

- ・ スケジュールは、脱稿を3月末、刊行・講習会を9月に予定している。

#### 接合小委員会(資料 03-05, 増田委員)

- ・ 9/21 にシンポジウム「現場溶接による梁端混用接合部の構造性能と設計・施工」を開催した。
- ・ 「鋼構造柱脚設計施工ガイドブック」の構造本委員会査読の報告がなされた。また、講習会会告の紹介がなされ、2/24(東京)、3/1(大阪)で実施予定である。

#### 耐火設計小委員会(資料 03-06, 平島委員)

- ・ 2016 年度大会 PD の報告がなされた。参加者は153名であった。
- ・ 鋼構造耐火設計指針の進捗状況が報告され、本委員会査読対応中で12月末に脱稿予定である。
- ・ パブリックコメントに対する意見はなかった。
- ・ 講習会は6/5を予定している。
- ・ 小委員会は来年度から2年ほど休止する。

#### 環境小委員会(資料 03-07, 兼光委員)

- ・ 本設材を仮設材にリユースする検討をしている。
- ・ 環境評価として、杭と住宅に関して項目の洗い出し中である。
- ・ 成果の海外発信として、指針の英文化について検討している。

#### 素材小委員会(資料 03-08, 中込委員:見波委員代理)

- ・ 金属材料関連刊行物は粗原稿を2018.03に完成し、2019.03に脱稿を目指す。
- ・ データベースの利用は8件である。
- ・ 鋳鉄検討WGの活動内容の報告があった。

#### 塑性設計小委員会(資料 03-09, 五十嵐委員)

- ・ 初稿を確認し、次回改定に向けての議論をした。
- ・ 接合部の塑性に関する検討をしたいので、中野先生(宇都宮大)を委員として追加したい。  
→運営委員会承認。事務局に連絡して構造本委員会への附議を依頼のこと。
- ・ 塑性指針の講習会は2/23(東京)、3/2(名古屋)、3/8(大阪)。

#### 鋼構造関連規準・指針の英文化小委員会(資料 03-10, 田川委員:岡崎委員代理)

- ・ S規準は、最終原稿の構造本委員会承認後、事務局で体裁確認。
- ・ 鋼構造接合部設計指針は、新年度早々に運営委員会査読の予定。

#### 鋼構造設計規準改定小委員会(資料 03-11, 田川委員)

- ・ 検討する項目が51あり、順次進めている。
- ・ 時代に合わせた更新を検討している。

#### 各種アンカーボルト設計WG(資料 03-12, 田川委員)

- ・ 各種合成構造設計指針への質問は、笹子トンネルの件もありアンカーに関するものが多い。金属系アンカーの総合的な設計指針はなく、一部設備の協会が独自の設計指針を見直していることもあり、早く改定したい意向がある。
- ・ WGでは出版ができないため、来年度一杯まで活動し、その後の対応を考える。
- ・ WGでは金属系アンカーの素案作成に取り掛かり、その後接着系アンカーに移行する。

(4) 資料 03-13 に基づき多田主査より2017年度大会PDについて説明がなされた。

- ・ 大会4日目の午前中に開催。

- ・ 地震後の損傷は、RC であれば目視で確認できるが S では難しい点に着目している。
  - ・ 2016 年の振動の PD との住み分けについては考慮している。
- (5) 資料 03-14 に基づき井戸田幹事より、学会図書の質疑回答状況について確認がなされた。
- ・ S 規準の質疑に関しては、下記(7)の議論を踏まえ早急に回答する。
- (6) 資料 03-15 に基づき多田主査より鋼構造運営委員会予算原案について説明がなされた。
- (7) S 規準の改定に伴い、前面隅肉溶接の許容応力度問題の説明が田川委員よりなされ、取扱いについて議論がなされた。
- ・ 接合部設計指針に既に示されている。鋼構造設計規準でも学術的な観点から、前面隅肉の耐力がせん断応力度より大きな値で設計できる方向に向かう事を記載すべきである。
  - ・ 学術的に詳細であっても、厚板まで実験的な検証はあるのか。
  - ・ 施工での技能者の技量の確保と検査に対しての保証が、現状では完全溶込み溶接に比べて必ずしも確立されているとはいえず不十分ではないか。
  - ・ 設計においても完全溶込み溶接で行われたことが、隅肉溶接に換わるディテールなどが想定される。功罪あると思われるが、社会的な影響は大きいと考えて慎重に対応すべきではないか。
  - ・ 今回の鋼構造設計規準の改定では前面隅肉溶接の許容応力度について、本文は変更しない。解説では、学術的な内容に加え、現状の課題を示し、本文に盛り込むことを見送った旨を記載する。

## 6. その他

- ・ 今後の重点審議は次の通り。
  - ◇ 2016 年度第 4 回(3 月)運営委員会:S 規準改定小委員会
- ・ 次回の運営委員会の日時、場所は以下の通り。
  - 第 4 回 2017 年 3 月 15 日(水), 13:00-17:00, 於:建築会館